

# 宇佐・中津研修の旅

浜田 平士

(会員 米水津村宮野浦)

## ◆一日目

十一月十七日恒例の研修旅行に行きました。今年はず佐・中津方面です。米水津の歴史を知る会十四人、佐伯史談会四人の計十八人は、これまで数回この旅行に同道しており皆顔見知りです。車中は談笑の二時間余でした。

車は宇佐高速道を出て、すぐ近くの丘にある三和酒類KKの工場に着きました。前以て見学をお願いしておりましたので、無縁の私達にも関わらず会社からはお迎えを受け、丁寧な案内をして貰いました。

工場の立地環境は素晴らしく、酒蔵のイメージは全くモダンな感じでした。六万坪の敷地内には、数多の建物と設備が配置され、全てが自然を大切にし、清潔を基本にしている事がよくわかります。従業員二百五十人、一日に一升ビンと小ビンで一万五千本の出荷と聞きました。

醸造タンクが並ぶ大きな部屋を見渡しながら、「いいちこ」が出来上がるまでの説明を聞き、焼酎甲類・乙類の質問もしました。そのあと、四十四度の原酒の試飲では味の良さに驚きました。この焼酎は市販していないとの事でしたが、ともかく一同午前中からの乾杯に意気揚々です。

一基で一升ビン十万本が貯蔵できると言うタンクが林立する様を見て、「一つでいいから米水津に担いで帰ったらなあ」と言う者、「俺は毎日でもここの見学に来てもいいぞ」と言う人、焼酎党は夫々楽しい夢を画いていました。そのあと名水の湧き水を味わい、完璧なチェックをする瓶詰工程も楽しく見学しました。

「いいちこ」の語源は、県北の方言で一番良いということ、「下町のナポレオン」はお客さん方から出てきた言葉と知り、品質第一の理念を生かす会社の良心は「いいちこ」と共に賞味出来ました。

研修は 何処吹く風か 酒試飲

(戸高皓爾・史談会会員・以下同)

## ●大楽寺

元弘三年（一一三三）後醍醐天皇の勅願寺であり、宇佐神宮大宮司到津家の菩提寺として創建され、開基は宇佐八幡宮大宮司到津公連公、開山は奈良西大寺の道蜜上人、当時の寺領は百二町歩もあり、高野山真言宗の古刹です。

本堂は防火のため收藏庫様に建て替えられている。本尊弥勒菩薩は松の寄木造り、結跏趺坐像で高さ一・四三メートル、脇侍両菩薩立像と共に平安時代後期の秀作。

四天王も松の寄木造り立像で、平安時代後期の作として、共に国指定の重要文化財、何れも彩色は塗り替えてなく古色のままであり、歴史の重みを感じる仏像です。

その他県指定や市指定文化財の仏像等、多数護持されておりました。宇佐神宮の影響下にあったお寺だけの事はあると感心した次第です。

### 寒風に 和尙同志の 立話

## ●県立歴史博物館

歴史博物館の前身は宇佐風土記の丘歴史民俗資料館です。今年十月に新装開館したばかりでした。「宇佐風土記の丘」は、国指定史跡公園で「赤塚古墳」初め六基の

古墳や竪穴住居があり、古墳群に埋葬されているのは三〜六世紀の「宇佐国造家の首長達」と言われています。この古い歴史の場、新しい施設の中で、大分県文化財を分かりやすく勉強できる事が、今回の旅行の主な目的の一つでした。

### 一、熊野磨崖仏大日如来像

玄関を入ると真正面に復元されています。

昨年 of 国東旅行では実物を拝見していましたが、この原寸大レプリカは良く出来ているように思いました。頭上の三面種子曼陀羅は、ここでは下にも展示されており見易くなっています。この種子曼陀羅は珍しいものとか、どんな意味をもつものか理解していませんが、仏様をより一層美しくする絵の様なものでしょうか。

実物の方は素朴ながら強い信仰の力を感じた事を記憶していますが、こちらは親しみ易い仏様の感じです。

### 二、富貴寺大堂実物大

大変素晴らしいの一語につきます。内陣の御本尊や柱や壁に画かれた仏様たちは極楽浄土の世界とか。

現地は薄暗く判然としがたいものでしたが、ここでは現代科学の最高の技術を駆使して顔料等の研究をし、創

建当時のままの様子を再現出来たとの事で、本当に驚きます。

藤原末期(一一〇〇年頃)宇佐八幡宮の大宮司の建立によるというが、その頃の人々はこちらにお参りしてどれ程か驚き喜びの声をあげた事でしょう。昔の人々の偉大さをあらためて思い知らされます。富貴寺のレプリカはこの館のメインとなるでしょう。

三、常設展示は、各課題毎に八つのコーナーになっています。

#### (一)生・死・いのり

大昔の人々は生死をどう思い、日々の暮らしの中で何を恐れ何に祈っていたのか。旧石器時代から古墳時代にかけての遺物や、模型が展示説明されています。「中津の上ノ原横穴遺跡」の人骨や、「風土記の丘の免ヶ平古墳」の石室・石棺・木棺及び三角縁神獸鏡は、畿内政権と宇佐の支配者には密接な関係があった事を証明するものです。

#### (二)豊の古代仏教文化

古代、九州東北部は豊の国と呼ばれ、七世紀終頃豊前豊後に分かれた。仏教が日本に伝わって(五三〇年頃)

百年位後、豊の国にも寺院が建立されるようになったという。その頃の寺院跡や瓦等が多く発見されていて、それらが展示されている。虚空蔵寺の三重の塔の模型は綺麗です。

天福寺の塑像は三像とも傷みが激しいが重要文化財であり、貴重なものでしょう。

#### (三)宇佐八幡の文化

八幡神の誕生から全国に八幡信仰が広まり、国家神として崇拜を集めた宇佐神宮の経過を展示している。国宝の「孔雀文髹」と「神宮や弥勒寺を含む周辺一帯の模型」は、神と仏が合体している様が見られて面白い。

#### (四)六郷山の文化

国東半島の仏教文化を紹介している。太郎天像・修正鬼会の鬼面や松明、国東塔や多くの石造物、更に山岳修験道の説明はあらためて復習出来ました。

#### (五)広がる仏教文化

山岳仏教が広まり、国東・大分・大野川流域の磨崖仏が数々出現し、大分県には豊富な石造文化財が残る結果となった。

白杵石仏の阿弥陀像レプリカは、この館内でも最高に

優美でポリウムたつぷりな仏様だと思えます。このよ  
うな仏様を眺めている時、何かしら気の安まる思いがし  
ますが、皆さん如何でしょうか。

日田の永興寺の兜跋毘沙門天は、大きくて迫力満点で  
す。

#### (六) 信仰とくらし

大分県の「祭りや盆正月の行事」、野津原町の後藤家、  
長洲の盆灯籠は豪華です。

#### (七) 匠たちのわざ (八) 情報サロン

二つのコーナーとも時間切れで見学出来なかった。又  
の機会を期待しましょう。

以上のように県立歴史博物館は、大分県が力を注いだ  
文化財研修センターだけの事はありません。私達の時間が  
少々足りなかったのと、もう一寸専門的な案内をうける  
事が出来たらなあとも思いました。

#### ● 双葉山生家

遺品を展示していました。家は双葉公民館になってい  
ます。

#### ● 平清經入水の地

駅館川の河口にかかる「小松橋」の傍らには、「清經」

の墓と伝えられる「五輪塔」と「記念碑」が建てられて  
いる。平重盛の三男である清經は、壇ノ浦の源平合戦を  
前に柳ヶ浦の沖合で謎の入水をしたという。平家の公達  
の悲運は多くの物語として語り継がれているが、ここは  
若武者終焉の地です。

#### ● 芝原善光寺

日本三善光寺の一つという。国指定重要文化財。

柿食えぞ 鐘は鳴らない 善光寺

#### ● 東光寺五百羅漢

お寺の裏には江戸時代後期二十年かけて五三八体の石  
像を完成させたという羅漢  
が祀られている。この羅漢  
達の表情は豊かで、実に個  
性的。皆愉快そうな顔をし  
ていた。入口の両側には同  
様な年代位の石造の陰陽石  
二基が苔むして立っていま  
した。真剣に撫でていま  
人、写真に写った人、どう  
ぞご利益がありますよう



東光寺の十六羅漢

に。東光寺の住職さん、きつと悟りを開いていた和尚さんだったと思います。

陰陽石と 並んで写る 夫婦かな

### ●掩体壕

旧宇佐海軍航空隊の飛行場の格納庫が十基残っている。近年宇佐市指定文化財になり、史跡公園として整備されている。先の大戦で散った優秀な若者達の悲しい物語が残る、「つわものどもの夢のあと」です。

### ◆二日目

十一月十八日。中津市内の案内にはボランティアの池田さんに来て頂きました。私達も見習わねばならない事です。

### ●福沢諭吉旧居

「独立自尊是修身・天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云へり」と説き、「文明主義の燈を高く掲げて日本の近代化民主主義」を先導した福沢諭吉を勉強することは、たいへん意義深い事と思います。旧居や資料館には随分沢山の資料が展示されており何れも立派なものばかりです。

近寄り難い偉人も、こ

こに来て拝察する時は、

親しみ深い校長先生のよ

うな感じでした。此の人、

度々里に帰り、中津の事

でいろいろ心配し、お世

話をしているが、やはり

偉いというのは、こんな

事なのでしょう。福沢諭

吉を書くなんて大それた

事、私流に申せば「めんだらしい」、ここ迄に致します。

資料館の陳列ケースには安政二年（一八五五）諭吉二

十歳の時、大坂緒方洪庵道塾の入門書があります。同頁

に「同年三月七日 入門 豊後佐伯 高橋玄策 狂死」

「同年三月九日 入門 中津藩 福沢諭吉」とありま

す。

右の高橋玄策は米水津村宮野浦の出身です。宮野浦の

大先輩故高林伝男先生は昭和四十年十月一日の新聞紙上

に、高橋玄策について記事を寄せています。

此の様な経緯から、池田さんにも資料館の係の方にも



福沢邸

解説をお願いしました。(現在地元宮野浦では、高橋玄策のことを知っている人はおりません)。

### ●中津城

天下最も多きは人なり。最も少なきも人なり。黒田孝高(如水)は、豊臣秀吉の命により九州を平定し、中津十六万石を拝領、天正十六年(一五八八)中津川河口に城を築く。城郭面積二万三千余坪、別名扇城、本丸石垣と内濠は当時のままで、水門より海水が入り潮の満干がある水城です。二代長政は文祿元年(一五九二)朝鮮に出兵、慶長五年(一六〇〇)関ヶ原役の戦功により福岡に転封、中津支配は十二年間。(後藤又兵衛や黒田節の母利太兵衛も此の地に居た事になる。)

以後中津は細川家が慶長五年より寛永九年(一六三二)まで三十二万石で三十二年間、小笠原家が寛永九年より正徳三年(一七一五)まで十万石で八十四年間、奥平家が享保二年(一七一二)より明治二年(一八六九)廃藩まで十万石で百五十二年間、合わせて二百八十一年



高橋玄策入門書

間、四家共代々十八人の殿様は名君だったのでしよう。現在でも名を残している人が多い様です。

天守台石垣は黒田孝高の築城分は「野面積」、細川忠興の増築分は「打込みはぎ積」で、私達の見目には初めの方がしっかりしているようです。

展示宝物は素晴らしい物ばかりです。鎧や天下ご免の白鳥の槍、鳥居強右衛門磔図、家康の親筆はか刀剣は珍しいものばかりでした。天守閣は昭和三十九年に再建したものです。

中津では殿様が転封される度に十六万石・三十二万石・八万石・十万石と増減する、従って領地や収入も変化する、武士や百姓町人はどんなふうになっていたのでしょうか。

### ●歴史民俗資料館

中津藩出身の先哲の展示が、大分県国民文化祭の行事として開催されました。

大分県には三浦梅園、帆足万里、広瀬淡窓の豊後三賢が出ています。十六世紀には大友宗麟が西洋と接触を持ち、江戸時代鎖国の中でも前野良沢は蘭学を始め福沢諭吉は文明開化に貢献し、滝廉太郎は西洋音楽を学ぶ等日

本の新しい文化を開拓した先人達を輩出しています。大分県は多種多様な自然に恵まれています。近世の小藩分立は各地域に異なった気風を生みましたが、文化の中心地も各地に作りました。

藩校は藩の財政難打開のために人材育成を目的としたが、人物輩出・文化普及という好結果をもたらしたので、中津藩からは前野良沢・倉成龍渚・高田虎之助・福沢諭吉等が出ています。以上は案内の小冊子の中から抜粋しました。

「ローカルにしてグローバル」言葉通りの人材です。また前記以外の人物として小幡篤次郎・八条半坡・和田豊治・水島鏡也等の学者や、有名な画家や頼山陽等の書画が展示されています。中津ならではの事と思えます。

また、石器時代からの埋蔵文化財や庶民の生活の器具類まで、所狭しと並んでいます。この資料館は小幡記念図書館として、一九八二年日本建築学会より表彰を受けた建物です。中津市は県北の商業都として栄え、今後は商業港や自動車工場の立地を計る将来計画を進めています。たいへん有望な事です。先人を顕彰する公共の政

策は、必ず花開き実を結ぶ事でしょう。ここに来ている物を見ました。来て良かったというのが実感です。車中にて池田さんに厚くお礼申し上げお別れました。

#### ●青の洞門

車中より眺めながら車は先に急ぎました。

#### ●耶馬溪羅漢寺

羅漢寺の歴史は大化元年（六四五）インドより渡来された「法道仙人」が此の洞中に留まり、去るに当って残した金銅仏一鉢が此の寺の始まりと伝えられます。平安時代には、山岳仏教の霊地となり天台宗の時期もありました。

後醍醐天皇の延元二年（一三三七）に、照覚禪師が十六羅漢と百羅漢の石像と安置して羅漢寺を開かれました。以来六百六十年、羅漢は厚い信仰を集めています。洞窟の中に祀られている羅漢の前には、願い事を書いた「しゃもじ」が全面に掛けられていますが、庶民の願いは随分多い様です。

羅漢は何れの顔も皆違っており、しかも顔よりも笑い顔や心地良さそうな顔、また、素朴な百姓といった顔が多い様に見受けられます。庶民にはとっつき易いので

しようか、お参りする人々で一杯なのも判る気がします。「しゃもじ」の由来は何でしょうか、聞き洩らししました。

リフトで登るのも珍しいが、堂の周辺の山々は南画に出てくる景色に似て、紅葉は今が見頃でした。

黙々と ただ黙々と 写真撮る

### ●安心院の鰻絵

鰻絵には幸福を願う庶民の素朴な思いが込められています。安心院のそれは多くは七福神・竜虎・鶴亀・中には壁一杯の富士山もありました。日本家屋と共にある匠の技と職人の心意気が残っています。安心院高校々舎の大きな壁画は、地域文化の保存継承の意味をもつものでしょうか。



鰻 絵

### ●楢本磨崖仏

応永三十五年（一四二八（室町時代））の石仏群で、不動三尊・薬師三尊・釈迦三尊等四十五像が彫刻されている。五百七十年もの昔、ここにも山岳仏教の修験者が居ったものでしょう。県指定史跡ですが山奥のため新しい道路が出来つつありました。



楢本磨崖仏

こうして二日間の行程はほぼ予定通り終わりました。出発の時は心配された天候でしたが、天気は上々暖かく最高でした。